



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# ある中堅社員のキャリア棚卸し

5

花垣は、今年でちょうど39歳。大台の40まで一步手前となった。オンライン形式による管理職研修を受けていた。若手の早期離職などが問題になっている中で、若い社員にどのように向き合うかといった点が主な研修テーマであった。ワン・オン・ワンの活用など彼や彼女によりそった対応が重要であると、担当の講師は強調されていた。彼が入行したころは、上司からの一方的な指示や指摘、多少の理不尽には応えることが普通であった。今の若手は恵まれているなと思いつつ、これまでの自分の経験が若手にはあまり参考にならなくなるのではないかと、少々さみしい気持ちも芽生えた。講師の方の話しを聞きながら、これまでの銀行員としての歩みをふと振り返るのであった。

10

15

## 地方銀行への就職

花垣は2009年に首都圏にある国立大学の商学部を卒業し、地元の地方銀行Iに総合職として入社した。地元を選んだ理由はいくつかあるが、地方では長男が家を継ぐという考えが少なからず残っており、花垣自身が長男であったことが大きく影響していた。大学時代、花垣は運動部に所属し、地元に戻るならということで公務員を目指していた。しかし、学生生活やバイト経験を通して、自身の知らない業界が多くあることを知り、社会の多様な考え方や多くのビジネスや業界に触れるチャンスがあると考えて、地元の地方銀行を就職先に選んだ。

20

就職活動は、リーマンショックの影響を受ける前であったので、学生有利の売り手市場であった。地方銀行では中途採用も行っていたが、税理士や社会保険労務士といった士業の資格を持つ人材や保険会社・証券会社・メガバンク等の同業他社から即戦力となる人材を採用していた。

25

本ケースは、慶應義塾大学大学院経営管理研究科の山崎誠也（M43）が、林 洋一郎教授の監修のもとに作成をした。社名や人名および具体的事例については特定を防ぐために変更されている部分がある。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクールまで（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。ケースの購入は <http://www.bookpark.ne.jp/kbs/> から。

30

Copyright © 山崎誠也、林 洋一郎（2022年6月作成）